

2020年5月21日

三田市長 森 哲男 様

日本共産党三田市委員会
市委員長 国永紀子

濟生会兵庫県病院との統合再編は断念し

三田市民病院の存続と充実に本腰をいれることを求める

市民のいのちと健康を守るためにご奮闘されていることに敬意を表します。

森市長は市長選挙（2019年7月）の後、「旧有馬郡で三田市民病院との広域基幹病院の枠組み作り（再編統合）を進める」とマスコミに公表されました。9月市議会では、市長は連携（統合再編）の相談相手とする病院が、神戸市北区にある濟生会兵庫県病院だと明らかにし、11月21日には北神・三田急性期医療連携会議が開催され、三田市民病院と濟生会兵庫県病院との間で連携協議が開始されています。

安倍政府は公立病院、公的病院の統合再編を進めるとともに、13万もの規模で病床削減を進めることを表明し、6月に予定されている経済財政諮問会議ではその進捗状況を点検するとしています。

しかし、新型コロナウイルスの蔓延は、改めて公立病院の役割を再認識させるとともに、公立病院などでの病床削減政策の根本的見直しが国会でも大きな争点になっています。邊見公雄自治体病院協議会名誉会長は、今後も繰り返される感染症対策からみて、公立病院の病床削減に強い危惧を表明されています。

三田市は、2014年3月に三田市民病院第二次事業計画を策定し、市議会でも承認された手術室増築などによる医療機能を強化充実させる基本構想による、本来の単独増改築計画があります。当時の計画では、72億円程度で三田市民病院の抜本的な医療機能強化が実現できるのです。

コロナ禍の中で、数百億円規模もかかる行方もわからない「統合再編」にしがみつくとではなく、2014年計画の原点に戻って三田市民病院の存続と充実に本腰をいれることを求めます。

三田市民病院を守ると市長がきっぱりと表明することにより、数年はかかると言われている新型コロナウイルスの猛威から、市民のいのちをまもる取り組みに、市長と市民及び市民病院職員が力を合わせて本腰をいれることが出来るのではないのでしょうか。